

# 第三回 シリーズ「オウム真理教の悪行を思い起こす」 冷酷非情な「坂本弁護士一家殺人事件」三つの墓標

# オウム対策住民協議会ニュース

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

## 1. 事件

一九八九年はオウムの転換の年だった。この年の八月に宗教法人の認証を受けた頃から、波野村や上九一色村で出家した子を助けようとする親の姿がテレビに映し出され、「オウム真理教の狂気」と題した週刊誌の特集記事が話題になり、ワイドショーでは空中浮遊もどきを演じるなど、オウムはマスコミを賑わし始めた。

なによりもこの年に、オウムは「坂本弁護士一家殺人事件」を起こしていた。この年、坂本弁護士は、出家信者の親からの相談を受けたのを機に、「オウム真理教被害対策弁護団」を結成し出家信者の親を組織化する一方で、(後に「オウム真理教被害者の会」となる)、脱会について教団と話合っていた。

が、決裂したため、教団活動の不正的追及や、宗教法人認証の取消要求などに戦術を変

更した。麻原彰晃は、坂本弁護士との揺るぎない姿勢に教団にとつての将来の障害を見て、

タントラバジラヤーナの教義に基づくポアとして信徒に彼の殺害を命じ、十一月四日未明、信徒六人(全員が死刑判決)が寝入っていた坂本弁護士(当時三三歳)、妻(当時二九歳)、長男(当時一歳)に襲いかかり、一家を皆殺しした。遺体は、坂本弁護士は新潟県上越市の山中に、妻は富山県魚津市の僧ヶ岳の山中に埋められた。

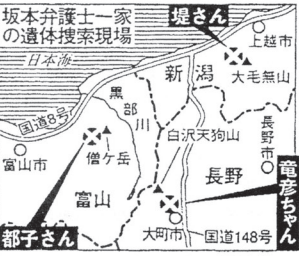
以上が、事件の経緯と全容である。

## 2. 驚くべき冷酷な非情さ

しかし、事件は六年間闇の中だった。地下鉄サリン事件で逮捕された信者達の証言等で一九九五年に事件は明るみにでて、私達は、報道されるニュースの

冷酷な非情さで自分の耳目を疑った。つまり、一家皆殺しを電話で指示できる冷淡さ。わが子の助命を嘆願する母親の前で、幼児の口を押さえて殺すことのできる非情さ。見つかりづらくするだけの目的で、三人の遺体を異なる県に埋める冷酷な冷静さ。仏教の根幹にある慈悲の心のかげらも見出せない。慈悲の心どころか、オウム真理教は殺人を許す教義を持つ宗教であった。邪教の極みである。

それにしても、事件が発覚するまでの六年間、解決の糸口は確かにあった。忽然と消えた弁護士一家の家でオウムのバッチ・プルシヤがみつかり事件とオウムの関係が示唆されたり、匿名で神奈川県警に竜彦ちゃんを埋めた場所の地図が送られ、そ



坂本弁護士一家の遺体捜索現場



坂本弁護士一家

## 住民協議会 平成19年度総会開催

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会の、平成19年度通常総会が6月15日(金) 烏山総合支所2階に於いて開催されました。

倉本俊幸会長の開会挨拶に続き、議事に入りました。古馬事務局長は、事業報告の中で住民協議会の6年半の活動にふれ「抗議集会・学習会の開催、協議会ニュースの発行、署名・募金活動など協議会の活動はオウムと対峙している全国の団体の中で特筆される活動」と語りました。住民協議会が6年半に亘る住民と一体になった活動により、オウム真理教は弱体化し分裂しました。「私達の活動に確信を持つ」と結びました。

今回の総会で、協議会の会長を退任する倉本会長に替わり、会長に就任した海老澤一良氏は、「オウムと対決する7年近い協議会の皆さんの活動は素晴らしいもの



長男・竜彦ちゃん

です。私も新会長として皆さんと一緒に活動していきますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。」と語りました。

来賓の、平谷副区長は、協議会の活動にふれ「先程報告がありました活動は全国でも誇れるもので、皆さんの活動に敬意を表します。区行政は今後も協議会の活動に支援を惜しまないものです。」と結びました。

最後に、6年半協議会会長の重責を果たした、倉本氏には惜しみない拍手が送られました。新たな会長の元で新体制を決定した総会も成功裡に閉会しました。



の場の捜査まで行われたが、今一步のところでは発掘にまでは至らなかったなど。この間、三人は北アルプスの山奥の泥濘につきり、坂本弁護士の家族や同僚達は生存を信じて署名活動を続け、オウムは松本・地下鉄の両サリン事件を起こした。これらをもっと、この事件がすみやかに解決されなかったことが悔やまれる。

## 3. シリーズ終了にあたって

三箇所の遺棄現場には、三人を慰霊すべく、墓標がたてられている。

オウムの事件が風化する中、あの驚きの日々を少しでも伝えようと

はじめたシリーズも、今回で終了する。丁度今、オウムを思い起こさせるかのように、上祐が分派し、新団体を立てた。曰く、麻原とは決別する、教義も残さない、云々。この言葉が欺瞞であったことは、公安庁の立ち入り検査の結果として報道された通りである。しかし、我々は、検査を待つまでもなく、上祐の言葉を聞くたびに、今回の一家皆殺し事件を初めとする、彼等自身が起こしてきた事件の数々を思い出し、あのオウムの言葉は信じられないとの思いを強くしていた。分裂したオウムであるが、両方の完全解散・解体を目指して、世田谷全区は一致団結して戦い続ける。

都子さんの遺体捜索 1995年9月6日

(写真は、毎日新聞一九九五年六月六日夕刊 九月七日朝刊・夕刊より掲載)



坂本弁護士

## 監視小屋日誌

住民協議会の大きな柱となっているのが監視活動です。現在は協力していただいている24の団体（町会、自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会）が年間のローテーションを組んで、毎日オウム真理教の動きを監視し、日誌に記録しています。

<監視小屋日誌より>

・今日はどこかで信者達の集まりがあるのか10時頃から、あわただしく3台の車に乗り込み移動していった。（テレビで見た顔もあり）

・午前中雨のせいかな信者達の出入りはほとんどない。監視活動をして何年にもなるが初めて上祐をみた。通常は裏から専用車に乗り込むらしいが、今日は正面から出てきて車で外出した。

・以前には多くの信者たちが密閉容器に入れた昼食を持って、GSハイムからサンサンマンションを往復していたが今

回は見られなかった。

・信者の男性が黒いスーツの営業マン風の男性と一緒にサンサンマンションから出て駅の方面へ。不動産屋のチラシを持っていた。

・エンジ色のトレーナを着た男性が何かぶつぶつ言いながらGSハイムとサンサンマンションを往復しダンボールをいくつも運んでいた。

・室内の改装の様子あり。トラックにて雑材を運ぶ。新品の畳入る、〇〇畳店より12畳位。GSハイムより男性、なにわナンバーの車に荷積みする。結構な量あり。

教団が分裂し、装いを新たにしても、私たちはだまされません！今後も地域住民の皆さんとともに「オウム真理教解散・解体」に向けて監視活動を続けていきます。御協力・御支援よろしくをお願いします。

※GSハイムにはひかりの輪、サンサンマンションにはアーレフが居住しています。

## 滋賀県湖南市で抗議集会が行われました

滋賀県湖南市で5月27日(日)約300名が参加して抗議集会が行われました。今回はデモは行わず、オウム施設を参加者全員で一周し、人間の鎖で囲みシュプレヒコールを行いました。

その後、釣田委員長と区長が声明文を読み上げて投函しました。行動1時間ほど前に住民が、写真展示の準備をしていると、自分の写真が大きく貼られているのを目撃した、二ノ宮耕一幹部が弟子2名を使い、釣田委員長に抗議に詰め寄るといふハプニングがありました。「抗議集会はオウム教団の

活動の抑止力になっている。彼らが暴発しないよう、地元に住む私たちは監視を続けなければならない。」との釣田委員長の呼びかけで終了しました。

6月21日には滋賀県湖南、甲賀の施設に上祐派との争いが強まる恐れがあるとして、公安の立ち入り検査が行われていました。湖南市と烏山はお互いに情報交換し、影響し合いながらこれからも活動を続けて行きたいです。

※編集部より 湖南市平松地区オウム対策委員会委員長 釣田正絃氏は5月の学習会で活動報告をしていただきました。ありがとうございました。

## 学習会でのアンケートにお答えします

質問. これまでの協議会の活動が、何の効果もないように見えます。オウムに私達のおもいが届いていないように感じますが。

答. 協議会の活動も今年12月で、7年になろうとしています。依然として、オウムは現存しています。その現実のみを見てみると、オウムに対して効果がないように見えますが、別の視点から考えてみましょう。

まずは、これまでの協議会の6年半の活動をふり返ってみます。抗議デモ・学習会14回、監視活動に約6,930名が参加。署名活動では、約114,000名のご協力。住民協議会ニュースは66号発行。各地のイベントに出向いての募金活動は123回をかぞえます。6年半の多様な活動は、思いもなかったポリ

ュームになりました。一方、現在のオウム真理教（アーレフ・ひかりの輪）の状況はどうなっているのでしょうか。信者の数は、現状維持です。財政面では、サリン被害者への賠償が遅れるなど、困難な状態が続いています。重要ポストにいた信者の脱会、高齢・病人の信者の存在。アーレフではトップの人事も決まらず、オウムの組織も矛盾が深まっているのが現実です。

上祐史浩が生き残りをかけて設立した「ひかりの輪」も、思った程信者が集まりません。上記の状況を冷静に判断すれば、住民協議会と、世田谷区民の運動がオウム真理教の運営に重要な影響を与えている事は明らかと考えます。住民協議会は今後手も緩める事なく、二つの団体を解散・解体させるまで闘います。

より一層のご支援ご協力をお願いします。

## 住民協議会活動報告

7月 2日(月) 「協議会ニュース67号」初校正  
7月 5日(木) 事務局会議

7月 9日(月) 「協議会ニュース67号」再校正  
7月16日(月) 「協議会ニュース67号」発行  
7月17日(火) 実行委員会

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。